

郷土が生んだ文武兼備の名将

新納忠元公

没後400年

本年は、郷土の名将「新納忠元公」の没後400年にあたり、各種事業を実施しています。すでに「新納忠元歴史講演会・シンポジウム」「新納忠元ゆかりの地巡りツアー」が終了し、今後この事業の集大成というべき「没後400年祭」を予定しています。

なお、この事業を実施するにあたって、市民の皆さまにはご理解とご協力、多くのご寄附を賜りました事に関し深く感謝いたします。

新納忠元没後400年祭

11月14日(日)に忠元神社境内において関係者約200人を招待して、没後400年祭を開催します。内容は神事、居合、詩吟、棒踊り、地元手踊りの奉納と、現在忠元神社境内に建立中の「二才咄格式定目」の石碑(原文)の除幕式を行います。



▲現在建立中の「二才咄格式定目」の石碑

青少年のまもるべききまり

- 一、まず武道を修練せよ。
- 一、いつも武士道について討論せよ。

(解説文)

1526年(大永6年)

志布志で生まれ、幼少の頃から島津日新公に仕え、学問や武芸の教えを受けた。成人した忠元公は、島津氏の三州平定や九州統一の戦いなど多くの戦場に出陣し、武勇とその名声を轟かせ、学問にも励み、文武兼備の優れた武将でありました。

1569年(永祿12年) 大口初代の地頭として大口城に入り、40年近くその任に当たった。

1587年(天正15年) 九州征伐の豊臣秀吉と忠元公は、大口曾木天堂ケ尾で会見した。

1610年(慶長15年) 85歳で死去。

忠元公は、二才(若者)の心身の鍛練・人格の向上・武士道などについて、「二才咄格式定目」に定め、若者の教育に力を入れ、文武兼備の名将・忠元公の魂は忠元神社にまつられ、土地の人から親しまれ、家内安全及び学問や武芸祈願の神社として崇められています。

新納武藏守忠元公
(1526～1610)



新納忠元
ゆかりの地
巡りツアー
(9月25日開催)

天堂ヶ尾関白陣



泉徳寺跡



忠元廟



当日は市内外から49人が参加し、講師の東哲郎先生（市文化財保護審議会会長）がゆかりの地で紹介する数々の逸話に耳を傾け、時には質問するなどして大変勉強になった様子でした。

好評発売中

新納武蔵守忠元公小伝

500円

伊佐市資料第1集 新納忠元没後400年記念誌 「新納武蔵守忠元公小伝」

文武兼備の名将「新納忠元」没後400年を記念し、伊佐市資料第1集として記念誌を発刊しました。忠元公の生涯をわかりやすく掲載した読みやすい本になっています。B5版75頁

問い合わせ先 大口図書館 ☎0417

郷中教育の基礎となった「二才咄格式定目」

一、よその人とは用件外の長話（無駄話）をするな。
 一、組織内では十分に話し合いをせよ。
 一、友だちであつても悪口を言うな。
 一、わからないときは自分勝手に行動をせず、話し合つて行動せよ。
 一、うそを言うな。
 一、忠孝の道は、口先だけでなく、人におくれないように実行せよ。
 一、山坂に負けない体力を作れ。
 一、二才（青少年）とは、年齢・体格・服装ではなく、精神と実行力だ。
 右のきまりは、かたく守り実行せよ。これを実行できない者は二才（りっぱな若者）ではないし、神佛の助けもないであろう。

一五九六年正月 二才頭

新納武蔵守忠元



原口泉先生の
基調講演



「演劇集団 非常口」公演「忠元物語」

当日は市内外から約300人が訪れ、参加者は真剣な表情で聞き入っていました。

新納忠元
歴史講演会・
シンポジウム
(9月5日開催)